

第4学年「総合的な学習の時間」学習指導案
単元名「ともに生きる ～あたたかいまちをめざして～」（20時間）

1. こんな子ども達だから

- 障がいのある子どもが本校では少ないこともあり、本学年の子どもたちは、日常生活において障害のある人々とふれ合った経験をあまり持っていない。そのため、障がいのある人々に対する認識は浅く、障がいを乗り越えながら社会の一員として生きていく姿に共感したり、そのような人たちの思いや願いにふれ、相手の立場に立ったものの見方や考え方をすることはできていない。また、自分たちの社会は、お互いに理解し、支え合いながら成り立っており、そういう社会の中で自分は生きているということにも気付いていない。
- これまでに子どもたちは、3年生の学習で、お年寄りと仲良くなるための計画を自分たちで立て、交流会を開いたり、聴覚障がい者の方の話を聞く経験をしながら、自分たちにできることについて考えている。また、国語の単元の中で「手と心で読む」をもとに、視覚障がい者の思いにふれたり、点字の存在について知り、もっと知りたいという意欲を持っている。
 また、3年生の学習で、子どもたちは、様々な事象と出会いながら課題を持ち、問題解決に取り組んできた。しかし、途中で課題が曖昧になったり、気持ちが途切れたりして、一人一人の追究が主体的なものになるまでには至っていない。

2. こんな教材で

- 視覚障がいのある人と出会い、お年寄りのハンディキャップも含めた障がいを通して、あたたかい街にするために自分ができることを考え、実践する態度を育てることは、次の点から価値があると考えられる。
 - ・既習の学習を生かしたり、体験的な活動を取り入れることで、追究してみたいという意欲を持たせることができる。
 - ・障がいのある人やお年寄りの話を聞き、ふれ合うことで、その人間性や積極的に生きる姿にふれ、現状で困っていることや周りの人々にしてほしいことなど、その思いや願いに迫ることができる。
 - ・疑似体験をすることによって自分たちの想像以上の苦労があることに気づき、障がいのある人を取り巻く問題を自分の問題としてとらえることができる。
 - ・身近な地域の中で追究活動を行うことにより、自分たちの住む地域では、すべての人が生活しやすい環境づくりのために様々な工夫がなされていること、もっと工夫すべきことや自分たちにもできることがあることに気づくことができる。また、自分ができることを考えることにより自分の成長を感じ、自分に自信を持つことができる。

3. こんな子どもの姿をめざしたい

- 障がいのある人との出会いや体験を通して課題を見付け、解決の見通しを持って自分なりの方法で意欲的に追究することができる。 【課題設定・問題解決の能力】
- 体験したことや調べたことをもとに、互いに関連させながら話し合い、障がいのある人やお年寄りの立場に立って考え、行動しようとするすることができる。 【主体的・創造的な態度】
- 障がいのある人やお年寄りとふれ合う活動を通したり、調べたりする活動を通して、ものの見方や考え方を深めることができる。 【学び方やものの考え方】
- 障がいのある人やお年寄りだけでなく、自分を含む様々な人にとって住みよい町とは何かを考え、社会の一員としての自分を自覚し、自分の成長に気づくことができる。 【自己の生き方】

4. そのためにこんな方法で

- 障がいのある人や地域で福祉活動をしている人の話を聞いたり、疑似体験をすることにより、安心して暮らせるようにするためには工夫が必要であることをつかませ、「自分の住む校区では障がいのある人に対してあたたかく住みやすい工夫がなされているだろうか」という疑問から切実な課題意識を持たせるようにする。
- 自分の課題を解決するためのよりよい方法を考えさせ、見通しを持たせるために学習計画を立て、主体的に追究活動が行えるようにする。
- 追究の途中で、中間交流会を開き、友だちと意見交換をさせる。その際、福祉活動をしている人をゲストティーチャーとして招き、示唆をもらって自分の追究に役立てるようにする。
- 国語の「手と心で読む」の学習を生かして視覚障がいに焦点をあて、視覚障がいの方との出会いを通して、自分たちが何気なく過ごしている日常生活の中で様々な苦労があることを理解させる。また、そのような苦労を乗り越えて前向きに日々の生活を送っていることを感じ取らせ、マイナスイメージを払拭させるようにする。
- ポートフォリオをもとに、助言したり朱書きを入れて課題意識が連続するようにし、自分の学習をふりかえり、自分の成長に気づくことができるようにする。

5. 単元計画

配時	学 習 活 動 と 内 容	教師の指導・支援と留意点	評価規準<評価方法>
1	<p>1. 「校区」についてのウェビングをし、校区の福祉について焦点をあて、これからの学習について大まかなイメージを持つ。</p> <p>2. 障がいには様々なものがあることを知り、障がいのある人について考える。</p> <p>(1) 既習の学習から想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目の不自由な人 ○ 耳の不自由な人 ○ 足の不自由な人 <p>(2) 障がいを持つとはどういうことか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 不便である ○ 楽しくない ○ 困る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3年生の学習で住みよい校区について学習したことを想起させる。 ◎ 校区にはいろいろな人が住んでいること、その中には体が不自由な人もいることを意識させ、これからの学習は校区の福祉について学習することを知らせる。 ◎ 国語「手と心で読む」を想起させる。 ○ 3年生の時の学習を想起させる。 ○ 自分が描いているイメージをそのまま出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校区について知っていることや思い浮かぶことを書いたり、発表したりすることができる。 ○ 思い浮かんだことを学習カードに記入したり、発表したりできる。
2	<p>3. 目が不自由なKさん、地域の中で障がいのある人に対するボランティア活動をしているEさん、民生委員のFさんの話を聞き、問題に気づく。</p> <p>(1) 話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活 ○ どんなことに不自由を感じるか ○ 困っていること ○ 考えてほしいこと ○ 校区にはどんな障がいを持った人がいるか ○ ボランティア活動をする訳 	<p>※ 目的や内容等を事前に打ち合わせておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 聞きたいことをあらかじめ考えさせておく。 ○ 自分の日常生活について話をしていただくことにより、主体性や努力、前向きな心をとらえさせ、これまでの自分の考えと比べるようにする。 ○ 困ることやみんなに考えてもらいたいことなどを話してもらい、疑問が持てるようにする。 ○ 障がいのある人に喜ばれることの嬉しさや前向 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聞きたいことをカードに記入することができる。 ○ Kさんの様子や話から、自分がこれまで持っていたイメージと比べ、前向きに努力されていることを感じ取ることができる。 ○ 福祉活動をするEさん、Fさんの生きがいを感じ取ることができる。

- (2) 聞いたことをカードにまとめる。
 (3) お話を聞いて思ったことや感じたことを発表する。
- ・校区の中にはいろいろな人が住んでいることに気づいていなかったこと
 - ・これまで体の不自由な人やお年寄りのことを考えて行動していなかったこと
 - ・校区は体の不自由な人にとって親切でくらしやすいところになっているのか

校区では、体の不自由な人に対してあたたかく住みやすい工夫がなされているだろうか。

3 4. 疑似体験をして、そのたいへんさを感じる。

(1) アイマスク体験

(2) 車椅子体験

(3) 点字体験

- 点字を読む
- 点字を打つ

(4) 体験活動をして、気づいたことや考えたことを交流する。

- 目が見えないと怖い
- 目が見えないと動きにくい
- 車椅子は狭いところが通りにくく危ない
- 段差があるとたいへん
- 介助はたいへん

きな姿に逆に励まされることで、生きがいや楽しさを感じることも話してもらおう。

- 発表をもとに疑問を出させる。
- ◎ 体の不自由な人にとって、親切さを感じられ、くらしやすいことを「あたたかく住みやすい」という言葉で表現することを確認する。
- ◎ 聞いたことを確かめるために疑似体験することを知らせる。

※ 事前に目的、内容等についてゲストティーチャーと十分に打ち合わせをしておく。
 ※ 安全確保のため、保護者に協力を依頼しておく。

- 障がいのある立場、介助の立場、どちらも経験させる。

※ 児童が打った点字をゲストティーチャーに読んでもらう。

- 障がいのある立場からだけでなく、介助者としての立場からも考えさせる。
- 自分がこれまで感じていたこととのずれに気づくようにする。

る。

- カードにまとめることができる。
- 進んで発表することができる。

- 進んで体験活動に取り組むことができる。

- 体験したことを通して自分の生活と比較して考えを持ち、発表することができる。

- 目が見えなかったり、体が不自由であったりすることは、生活する上で想像以上にたいへんであることをつかむことができる。

- 自分の思いを持ち、カードに記

1 八 本 時 V	<p>5. 聞いたことや疑似体験をもとにして、自分の課題を考える。</p> <p>(1) 調べることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 点字ブロックや音の出る信号機など、目の不自由な人のための施設・設備 ○ ボランティアの人 ○ 車椅子が通れる歩道 ○ 校区の取り組みなど <p>(2) 自分の課題を決める。</p> <p>(3) それぞれの課題を発表する。</p> <p>(4) 中心課題を決める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>お年寄りや体の不自由な人にとってあたたかく住みやすい校区をめざそう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分なりの課題が持てるように、これまでの活動や体験を整理する。 ◎ 前時の疑問をもとにして、その疑問を解決するためにどんな課題を持てばよいか一人一人に考えさせる。 ○ 「あたたかく住みやすい」ということについて具体的なイメージを持たせる。 ◎ すぐに解決できるものやとうてい解決できないものなどは、課題としてふさわしくないことを示す。 ○ どうしてそのことを課題にするのか、どのように追究していこうと思っているのか考えさせる。 ○ 中心課題に向かってそれぞれの課題を解決していくことを意識させる。 	<p>入することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題を見付けようとポートフォリオをふりかえる態度が見られる。 ○ 学習カードに自分の課題を書くことができる。 ○ 課題設定の理由を書くことができる。 ○ 設定の理由も述べながら発表している。
1	<p>6. 自分の課題について教師のアドバイスをもとに見直しをし、学習計画を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもとの対話によって、子どもが課題を見直すようにする。 ○ 活動の見通しを持たせるために、自分の追究計画を計画表に記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題の見直しができる。 ○ 自分の課題を解決するために、内容、方法、場所などを具体的に記入することができる。
9	<p>7. 自分の課題を解決するために追究活動をする。</p> <p>(1) 調査活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設 ・ ユニバーサルデザイン ・ ボランティア など <p>(2) 調べたことや自分の考えをまとめ、中間交流会を</p>	<ul style="list-style-type: none"> ※ 安全に配慮して、グループに分かれ教師が引率する。 ○ ボランティア活動をしているゲストティーチャ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分なりの追究方法で活動を進めることができる。 ○ みんなに聞いてもらいたいこと

	<p>する。</p> <p>(3) 調べ直しや付け加えをして、自分の考えをまとめ、意見の交流をする。</p> <p>2 8. 自分たちの考えたことを実践したり、お世話になった方々に知らせたりする。</p> <p>(1) 今の自分にできることを考え行動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ポスターなどにして掲示してもらう。 ○ 社会福祉協議会などに自分たちの考えたことを伝える。 ○ 街で声をかける。 ○ お年寄りや障害のある人に手を貸す。 <p>(2) お世話になった方々に自分の考えを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の製作物を見せる。 ○ 点字で手紙を書く。 <p>1 9. 学習してきたことを自分の生活と結びつけ、自分をふりかえり、自分の成長に気づく。</p>	<p>一に聞いてもらい、示唆を与えてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これまでのポートフォリオをもとに、凝縮ポートフォリオにまとめ、発表資料とさせる。 ◎ 表現方法が分からない場合には、模範例を提示する。 ○ 自分にあった実践方法や表現方法を選べるようにする。 ○ 自分の生活と結びつけて考えることができるように、自分のこれまでの生き方と比べて考えるようにさせる。 	<p>をわかりやすくまとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちの考えと比べながら聞くことができる。 ○ 追究が深まったことに気づくことができる。 ○ 自分なりの表現方法で伝えたいことを表すことができる。 ○ 自分の成長に気づくことができる。 ○ これまでの活動をふりかえり、これからの実践に意欲を持つことができる。
--	---	---	---

6. 本時指導案

日時 平成 年 月 日
場所 小学校4年 組教室

(1) 単元名「ともに生きる ～あたたかいまちをめざして～」 本時（7 / 20）

(2) 目指す子どもの姿

- 障がいのある人との出会いや疑似体験を通して、切実な課題意識を持ち、自分の課題を持つことができる。 【課題設定の能力】

(3) 本時指導の考え方

前時までに子どもたちは、校区の中で障がいのある人に対するボランティア活動をしている方や、お年寄りの方に話を聞くことで問題に気づいている。そして、障がいに対する疑似体験をすることによって、障がいのある人と自分の生活との関わりを意識し始め、課題意識を高めてきている。

そこで本時は、前時の「校区では、体の不自由な人に対してあたたかく住みやすい工夫がされているだろうか」という疑問をもとにして、その追究の方法を子どもに考えさせ、それを一人一人の課題にしようとするものである。

そのために、子どもたちにどんなことを調べたら疑問が解決できるのか考えさせる場を設ける。その際、課題づくりの観点を示し、課題としてふさわしいものはどういうものか意識させたい。そして、それぞれの課題を発表しあい、中心課題を設定することによって、追究したことを交流するときの共通のテーマとしたい。

(4) 用意するもの

〔児童〕 学習カード ポートフォリオ

〔教師〕 課題づくりの観点(拡大資料) 前時までの活動の流れおよび写真等

(5) 本時の展開（別紙）

(6) 板書計画

ともに生きる～あたたかいまちをめざして～

めあて

これまでの学習をもとにして、自分の課題をつくろう。

校区では、体の不自由な人に対して、あたたかく住みやすいくふうがされているだろうか。

「あたたかく住みやすい」とは

- ・安全にらせる。
- ・便利がよい。
- ・楽しくらせる。
- ・みんなに親切にしてもらえる。

↓

解決するためにどんなことを調べればよいか

課題

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○調べよう

調べたいこと

しせつやせつび

- ・信号機 ・デイケアセンター
- ・歩道の段差 ・トイレ
- ・点字ブロック ・スロープ

ボランティア活動

- ・介助の人
- ・手話をする人
- ・そうだんにのる人

課題

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○調べよう

中心課題

おとしよりや体の不自由な人にとって、あたたかく住みやすい 校区をめざそう

(5) 本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	教師の指導・支援と留意点	評価規準<評価方法>
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <p style="text-align: center;">めあて _____ これまでの学習をもとにして、自分の課題をつくろう</p> <p>2. 前時の疑問から「あたたかく住みやすい」とはどういうことか具体的にイメージを持つ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">校区では、体の不自由な人に対してあたたかく住みやすい工夫がされているだろうか。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心して暮らせる。 ・楽しく暮らせる。 ・みんなに親切にもらえる。 </div> <p>3. これから追究していきたい自分の課題を考える。</p> <p>(1) どんなことを調べたらよいか考え、発表する。</p> <p>(2) 自分の課題を決める。</p> <div style="border: 2px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校区には、目の不自由な人のためにどんな施設や設備があるか調べよう。 ・ 校区でボランティア活動をしている人について調べよう </div> <p>4. それぞれの課題を発表する。</p> <p>5. 中心課題を決める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">おとしよりや体の不自由な人にとって、あたたかく住みやすい 校区をめざそう。</p> </div> <p>6. 次時の学習について確認し、 ふり返りを書く。</p>	<p>○ 自分なりの課題が持てるようにこれまでの活動をふり返らせ、前時の疑問に焦点をあてる。</p> <p>◎ 前時の疑問をもとに、その疑問を解決するためにどんなことを調べたらよいか一人一人に考えさせ、それを自分の課題とすることを知らせる。</p> <p>○ 「校区」を意識させる。</p> <p>◎ すぐに解決できるものやとうてい解決できないものなどは、課題としてふさわしくないことを例を挙げて示す。(課題づくりの観点)</p> <p>○ どうしてそれを課題にするのか、どのように追究していこうと思っているのか考えさせる。</p> <p>○ 中心課題に向かってそれぞれの課題を解決していくことを意識させる。</p> <p>◎ 黒板の単元名にサブタイトル「あたたかいまちをめざして」を付け加える。</p> <p>○ 次時学習では、学習計画を立てることを知らせる。</p>	<p>○ 前時にしたことを発表しようとしている。</p> <p>○ 疑問からイメージを持っている。</p> <p>○ 課題を見付けようとポートフォリオをふり返ることができる。</p> <p>○ 調べることを発表しようとしている。</p> <p>○ 学習カードに自分の課題を書くことができる。</p> <p>○ 課題設定の理由を書くことができる。</p> <p>○ 課題設定の理由を述べながら発表している。</p> <p>○ 自分の活動についてふり返りを書くことができる。</p>

ともに生きる ①

4年 組 ()

- 校区について思いうかぶことを書いてみよう。

校区

- 自分が考えたこと

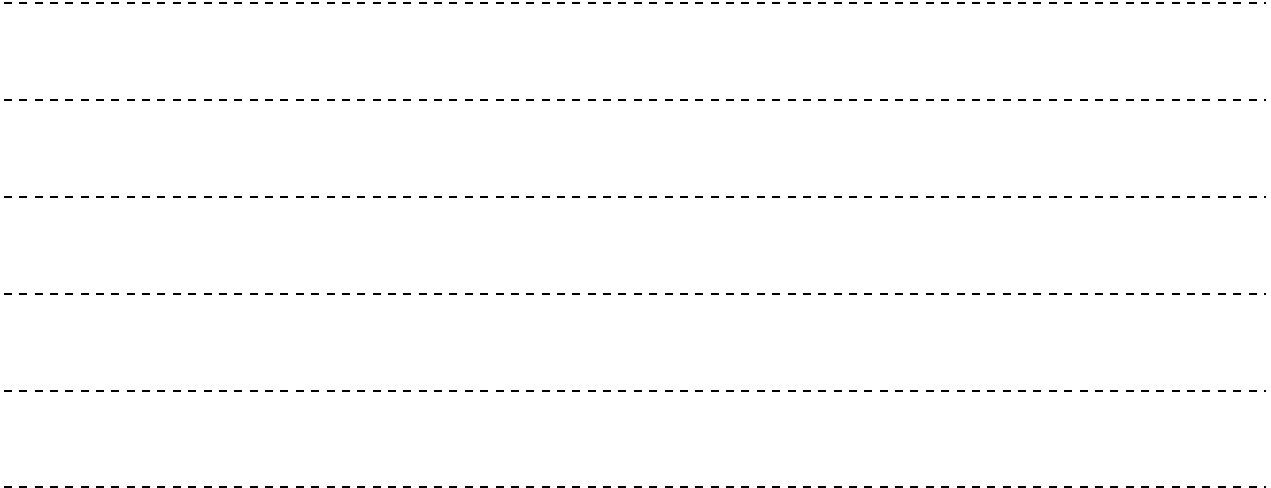
ともに生きる ②

4年 組 ()

○ K さんの話



○ K さんの話を聞いて思ったことや感じたことを書こう。



ともに生きる ③

4年 組 ()

○ Eさん, Fさんの話



○ Eさん, Fさんの話を聞いて思ったことや考えたことを書こう。



ともに生きる ④-1

4年 組 ()

○ アイマスク体験をして感じたことや思ったこと

☆ 目が不自由な人の立場になってみて

☆ ^{かいじよ} 介助する立場になってみて

○ 車いす体験をして感じたことや思ったこと

☆ 車いすに乗る立場になってみて

☆ ^{かいじよ} 介助する立場になってみて

○ 点字体験をして感じたことや思ったこと

ともに生きる ④-2

4年 組 ()

○ 体験したことから、体の不自由な人たちの生活と自分の生活とをくらべて考えたこと

○ 介助をする立場から考えたこと

ぎもん

- ◎ これまでの自分の学習をふりかえってみよう。 (◎○△で)
- ・ ゲストティーチャーの話をしっかり聞くことができましたか。 ()
 - ・ 自分の考えをきちんと書くことができましたか。 ()
 - ・ 進んで発表することができましたか。 ()
 - ・ 体験活動に熱心に取り組むことができましたか。 ()

ともに生きる～

～ ⑤

4年 組 ()

めあて

学習したことをもとにして、自分の課題^{かだい}をつくろう。

ぎもん

校区では、体の不自由な人に対して、あたたかく住みやすいくふうが
されているだろうか。

「あたたかく住みやすい」とは

↓
どんなことを調べたらよいか

自分の課題^{かだい}

この課題にしたわけ

とくにどんなことを

中心課題

今日の学習で

ともに生きる ～あたたかいまちをめざして～ ⑥

4年 組 ()

めあて

自分の課題を解決するための学習計画を立てよう。

自分の^{かだい}課題

とくにどんなことを

学 習 計 画

ど ん な こ と を		場 所, 方 法
課題をつくる。		教室で話し合い
学習計画を立てる。		教室で
調 べ る		
調べたことをまとめる。		
中間発表会をする。(衛藤さん, 甲斐さんにきいてもらう)		
調べ直しやつけくわえをする。		
発表会をする。		
自分にできることを考える。		
お世話になった人たちに自分の考えをつたえる。		

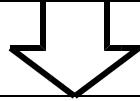
ともに生きる ～あたたかいまちをめざして～

月 日

4年 組 ()

自分の課題

	()
--	-----



今日やること

--

次の時間の活動は

--

今日の発見 (そうだったのか! 知らなかった やっぱり)

--

・進んで活動できたか

・新しい発見があったか

よくできた

できた

もう少し

--	--	--

--	--	--

ともに生きる ～あたたかいまちをめざして～ 月 日
4年 組 ()

めあて

中間交流会をして、友だちの発表のよいところや、自分の発表のなおしたいところ、もっと調べたいことを見つけよう。

○ 友だちの調べたことや発表のしかたでよいと思ったところ

○ 自分の発表でなおしたいところやもっと調べたいこと

○ EさんやFさんの話を聞いて^{さんこう}参考になったこと

- ◎ 今日の自分の学習をふりかえってみよう。 (◎○△で)
- ・ 自分の発表のしかたはよかったですか。 ()
 - ・ 友だちの発表をしっかりと聞くことができましたか。 ()
 - ・ ゲストティーチャーの話をしっかりと聞くことができましたか。 ()
 - ・ もっと調べたいことを見つけることができましたか。 ()

ともに生きる ～あたたかいまちをめざして～

4年 組 () 月 日

めあて _____

これまでの学習をふり返り、この学習をする前の自分と今の自分をくらべてみよう。

○ これから自分でできることを書いてみよう。

○ この学習をする前の自分と今の自分をくらべて思うことや、この学習をとおして自分が感じたことなどを書いてみよう。
